



## 山元町の子ども向けプログラムのたちあげ

これまでACEがインド・ガーナで実施してきた児童労働撤廃プログラムで大事にしてきたコンセプトが「子どもたち自身が自分たちのニーズを大人に伝え、大人がそれを受け止め、協力して子どもにやさしい村をつくる」というものでした。これは子どもの権利条約でもうたわれている「子ども参加」の考え方を実践しています。これを被災地でも実現できれば、と考え、甚大な被害を受け、これから復興計画を策定する山元町においても、「未来に希望をもてるまちづくりのための、子ども・若者アクションリサーチ」活動を実施する計画をたてました。



## ぼくの わたしの たからものワークショップ

山元町に通いながら調整を続ける中で、試験的に行ったワークショップで子どもたちの声を聞くと、家族や友人と離れて暮らすことになるなど環境の変化の中で、震災で負った心の傷や不安を共有したり、相談したりする機会が減ってしまっていることに気付きました。また当初の計画は調整が難航したり、実施体制の整備が難しいこともわかりました。そこで、「子どもの心のケア」に焦点をあてて、子どもの声をきき、また子ども同士で思いや経験を分かち合うことで、子ども自身が持つ、心の傷を癒し回復する力を引き出すきっかけ作りをする「ぼくの わたしの たからものワークショップ」を実施することにしました。子どもが自分の気持ちを表現し、それを他の人に見たり、聞いたりしてもらうことによって自尊心を高め、さらには、子どもたちの前向きな意見を聞くことによって大人にも希望を与え、地域全体が元気になる一助となればと考えました。



## ワークショップ内容

はじめに体を動かすゲームを通じたアイスブレイキングを行い、「部屋の四隅」の手法を使い質問をなげかけ、インタビュー形式で答えの理由を教えてくださいました。自分がそれぞれの質問にどう答えたかを振り返るシートに子ども自身が記入し、最後に①ぼくの わたしの大切なもの ②どんな大人になりたい? ③山元町の好きなどころ、町にあったらいいもの、のいずれかのテーマを絵で表現してもらいました。3回のワークショップを通じ、3歳から18歳の計54人の子どもたちに参加してもらいました。

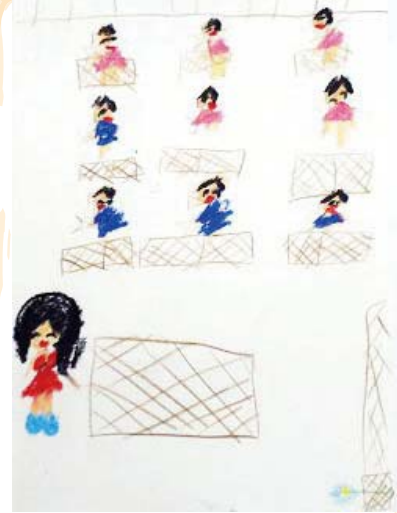


### この冊子の内容について

この冊子には、できるだけありのままの子どもの声をのせていますが、山元町の子ども全体を代表するものではありません。子どもたちからのコメントに対する解説は各ページをご覧ください。



りんごがり  
りんごがだいすきだからです



学校の先生  
子どもに1週間会えるから

Q1. 今日元気ですか？

すごくそう思う

まあまあそう思う

あまりそう思わない

ぜんぜんそう思わない

39人

6人

4人

3人

わらってるから

寝不足です

おなかがすいた

のどがいたい

楽しくあそんだりしたから

がっこうはたのしいから、わくわく

ともだちに会えたから

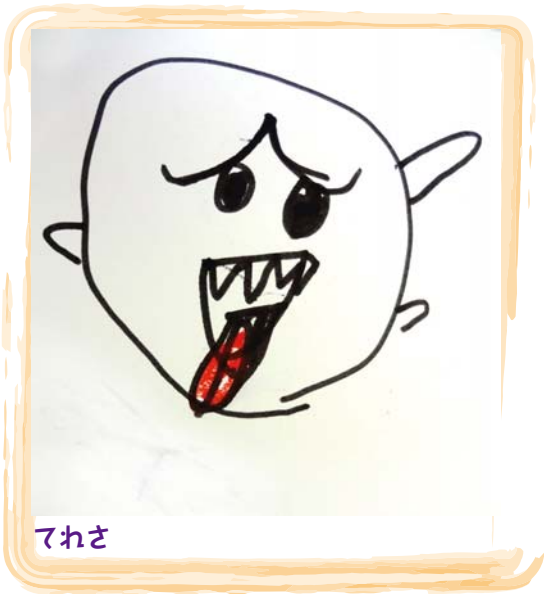
この質問には大半の子どもが「すごくそう思う」と答えていました。町内のイベントや子どもたちの集まりでワークショップを行ったのですが、子どもたちはとても元気がよく笑顔が多かった印象を持ちました。「ともだちに会えたから」と答えた子は、イベントに来たことで震災後に引っ越して離れ離れになってしまった友達に久々に会えて嬉しいから「今日は元気」と話してくれました。



元気にあいさつ気持ちいいな  
わたしは山元町が好きです。  
なぜなら山元町のみなさんが  
元気よくあいさつしてくれるからです。







てれさ



大好きリンゴ  
私は、リンゴが好きです♡

Q2. 毎日楽しく過ごしていますか？

すごくそう思う



まあまあそう思う



あまりそう思わない



ぜんぜんそう思わない



いもうとがげんきにすごしている

友だちといっしょにあそんだり、  
手紙を書いたやつをあげたり

1がっきから2がっきもやすんでいるから

学校でも友達が沢山いて楽しい

朝、元気にあいさつできたりしてるから

学校が楽しい

妹とケンカしてるから

充実感がない。何かが足りない

この質問に対しても、多くの子どもが「すごくそう思う」または「まあまあそう思う」と答えました。その気持ちとしては、震災直後は学校がお休みで友達と会えない時があったけれど、今は学校で会えるから「毎日楽しく過ごしている」などおしえてくれました。少数ですが、「何かが足りない」など「あまりそう思わない」といった声もありました。





**NEW MY LIFE**

今年、地震とか色々あったけど、そんな嫌な思い出を忘れさせてくれるくらい学校は楽しいから、凄い大切です。



**ピカチュウ**

へんなことがあったとき  
たすけてくれる

**Q3. 今の自分は好きですか？**

すごくそう思う

まあまあそう思う

あまりそう思わない

ぜんぜんそう思わない



あたまがわるいから

かみがながいから

やりたいことができないから

おとうさんたちが、かわいって、いってくる

つめがザラザラ、はだかがザラザラ、かみがチリチリ

やりたい事をやりきれてないから



**オースピタライラコンボとコウモリ**  
好きだから

この質問は、震災後、子どもたちが自分のことをどのように捉えているのかを聞くものでしたが、「すごくそう思う」と答えた子どもがやや少ない傾向にありました。話を聞いてみると、自分自身が自分のことを好きかということよりも、親や周りの人が自分のことをどう思っているかという視点で考えている子どもたちがいて、「すごくそう思う」と答えた子どもたちもやはり周りにどう評価されているかが自分の肯定感と結びついていることがうかがえました。



坂元小学校の前  
みどりいっぱいあるのが  
やまもとちょうのいいところだから

Q4. 震災後、いつもの生活は変わりましたか？

すごくそう思う

まあまあそう思う

あまりそう思わない

ぜんぜんそう思わない

17人

7人

0人

6人

でんきがないから

よるにラジオをきくから

アパートで大きな声を出したり、走ったりできないから

しんさいのときは、火とか水がでなかったけど、今は、水とか火とかはつかえるようになったから

家ぞくがぶじでよかった。けがをした。

たいせつなものをそばにおく

ほうしゃのうで外にあまりでられなくなったから

じしんでいえがぐちゃぐちゃになって、こうじをして。いえの中がかわったから

みんなふつうの生活よりいらいらして、じぶんもいやな気持ちになっているから

お母さんの顔が少しちがう(やさしくなった)

この質問は2回目のワークショップから加えたため、回答の母数が他の質問より少なくなっています。繊細な子どもの気持ちを配慮しながら、実際に震災は子どもたちの日常をどのように変えてしまったのかを聞きました。「家族が夜、ラジオをつけて、すぐに地震の情報をきけるようにしている」、「津波で大切なものが流されたので、今は寝るときそばに置いている」、「お母さんが放射能のことを心配している」など、未だ地震や被害状況の不安ななかで過ごしている様子がうかがえました。山元町は農家を営んだり、一軒家に住んだりしている方が多くいました。慣れない仮設住宅や新しいアパートでのせまい空間での暮らしは、みんなにストレスを与えてしまっているようです。また、被害が甚大であったために、それを乗り越えた今は「無事でよかった」「今は生活が良くなった」「お母さんの顔が少し優しくなった」などの声もありました。





ヤキウセンシュ  
ヤキウのしあい



ゆうえんち  
うしばしにゆうえんちがあつたら...

Q5. 山元町は好きですか？

すごくそう思う

まあまあそう思う

あまりそう思わない

ぜんぜんそう思わない

35人

9人

1人

5人

友だちとかもいるし、くだものもあるから

友達がいるから

友達がいてよかった

みどりがいっぱいあるから

りんごといちごがおいしい

このまえ、こようがものすごくきれいだったから

海がいっぱいあるし、山もあるから

しぜんがいっぱいあるからです

海がきれい

地元がいちばん落ち着く

ACE も思わず笑顔になったのは、「山元町は好きですか」の質問に対して大多数の子どもが、そして直ぐに、「すごくそう思う」と答えたことです。「山元町は人がいい」「友達がいる」「自然がたくさん」、などと話をしてくれました。自分たちの住んでいるところにとっても愛着をもって暮らしていることが伝わってきました。山元町の子どもたちは、大好きな人と豊かな自然に囲まれながら生活を送っていて、だからこそ、今回の震災で失ってしまったものはあまりに大きく、とても大切なものであったと思い返しているように思われました。

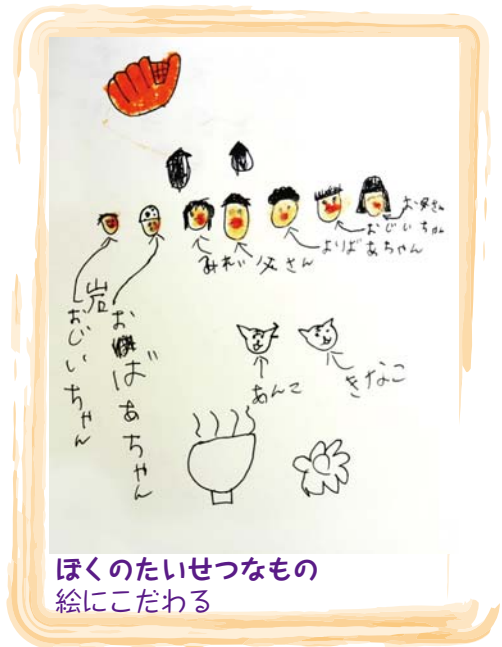


家族が大好き

わたしは、家族好きです。なかでもお母さんが好きです。お母さんはやさしいからです。



ママたちのかお  
ママとあそんでいるところです

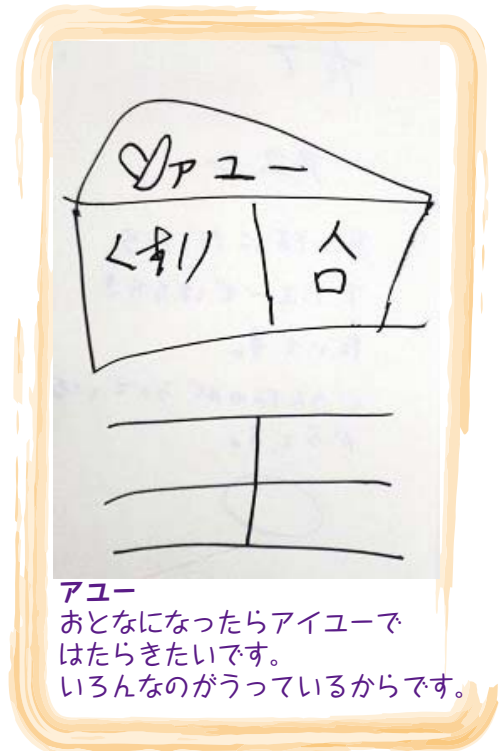


ほくのたいせつなもの  
絵にこだわる

ACE は、この子どもたちの声をみなさんへお届けすると同時に、  
未だ癒えない町と人々の心の傷に寄り添いながら、  
一緒に復興へと向かっていきたいと思ひます。



すきなもの  
自分が好きなものをとにかく描いてみました。  
真ん中は犬です。



アイユー  
おとなになったらアイユーで  
はたらきたいです。  
いろんなのがうっているからです。

協力：森永製菓株式会社  
FUTURE SKETCH WORKSHOP(東京文化発信プロジェクト)  
山元町教育委員会生涯学習課  
山元町社会福祉協議会  
やまもと復興応援センター  
助成：赤い羽 災害ボランティア・NPO 活動サポート募金

